

I 実践

1 あいさつ運動の実施

本校では、月初めに朝のあいさつ運動を生徒会が中心になって行っている。登校時のあいさつを進んで行い、よりよい人間関係を築き上げようという運動である。

また、生徒会だけでなく、生活委員会や学級役員、さらには部活等のボランティアも運動に参加し、一年を通して継続して行ってきた。



2 道徳の授業や各教科・学級における実践

道徳の時間は、年間指導計画に沿って副読本を活用して計画的に指導が行われてきた。一人一人を大切にしようとする態度を養い、差別や偏見が誤りであることを正しく理解し、誰もが生き生きと自分の存在を認められ安心できる心の居場所があると実感できる学校生活を送れることを目指した。

また、社会科の授業では歴史的な分野で身分制度や差別について、現代の人権について学習した。公民的分野では「基本的人権」の大切さを学習した。また、社会科の夏休みの選択課題として人権作文を募集した。多くの生徒が作文を書くことを通して、いじめや差別を考える機会になった。

3 人権メッセージの全校参加

人権についての意識を高めるために「人権メッセージ」への参加を全校生徒で取り組んだ。また、優秀作品は人権コーナーに掲示したり給食の時間に生徒会役員が放送で読み上げたりし、生徒の様々な考えを互いに伝え合う活動を行った。

4 生徒指導における実践

QU テストや毎月のアンケートをもとに、学級内の様子を分析したり、生徒理解に努めたりした。また、個別相談日を設けるなど、生徒の状況に応じて対応を進め、学校全体で連携し、学級経営にも生かした。

5 教師の人権意識の高揚

教員の人権に関する理解と認識を高めるために、夏休みには教師に向けての「人権校内研修」を行った。学校内での連携を深め、生徒の人権感覚や人権意識の育成を図るために、教師としての意識の再確認を行った。

〈主な研修内容〉

- ・ 第30回人権（同和）教育研修会参加報告
- （1） 特別な配慮が必要な児童・生徒に対する目に見えない差別について
- （2） 差別用語について
- （3） 事例紹介



II 今後の課題

授業や様々な教育活動によって、生徒の人権意識が高まってきていると感じるが、さらに日々の生活の中から意識づけることの必要性を感じる。人権をより身近な課題として、自分の生活の中で常に意識し、行動や言葉かけの中で表現できるような生徒の育成を推し進めていきたい。

III 人権コーナー設置の様子



過去の優秀人権メッセージ掲載



校内の優秀人権メッセージ掲載